

平成26年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援及び 大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会（第3回）議事概要

日 時：平成27年3月2日（月）14：00～16：00

場 所：スクワール麹町 5階 「全芙蓉」

出席者：（委 員）明石委員、阿川委員、市村委員、内田委員、荻上委員、
黒田委員、続橋委員、寺島委員、長尾委員、日比谷委員、
平野委員

（文 部 科 学 省）吉田高等教育局長、松本高等教育企画課国際企画室長、
佐藤高等教育企画課国際企画室専門官、鈴木高等教育企
画課国際企画室専門官

（日本学術振興会）渡邊理事、舟橋審議役、三上人材育成事業部専門調査役

議題

（1）報告事項

①「大学の世界展開力強化事業」採択事業のフォローアップ結果について

【質疑応答】

（平野委員長） ご意見、ご質問がありましたら、是非お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（寺島委員） 質問を兼ねた意見も含めてなのですが、要するにこの段階で交流プログラム実施の成果が見えるというのは、3年間の実績が出てきた平成23年度採択分が非常に気になります。私自身、初期キャンパスアジア構想のところから関与してきており、思い出してみると、これは欧州のエラスムス構想を日本あるいは東アジアにおいても実現したいということで、日中韓の交流プログラムとして踏み込んでいったわけです。ここに持続的運営がポイントだとか、日本人学生の就職が壁になっていることが課題などと指摘されていますが、実施したことに大きな意味があると思いますし、私自身、幾つか進捗している大学の具体的な話に関係していますから、実感もあるのですが、やはりタイプAの日中韓のプログラムが、我々が考えるべき最大のポイントだと思います。例えば、954名の派遣実績があるとなっていますが、単位取得の段階までいっているのは半分以下の431名です。さらに言うならば、3カ月以上のプログラムが164人で、現実問題として2割弱です。つまり、我々が目指した欧州における単位互換協定であるエラスムス構想に踏み込むには、やはりまだ大きな壁があることを率直に認識しなければいけないだろうと思います。

その背後にあるのは、言うまでもなく日中韓の政治的な現状であり、そういう中で現場が努力してこのプログラムを進めて支えてくれているわけですから、私はネガティブなことを言う気は一切ありません。今の段階で我々が確認しているのは、及び腰の進捗で苦労しながらもここまで来ているというのが、正しい認識ではないかと思います。

特に例えば岡山大学が実施しているアジアの共通善や、立命館大学の人文学リーダーというのは、やはり歴史認識や価値という問題によくぶつかって、苦労しつつ努力している

ことがよく分かります。こういう政治的な状況であっても、教育というところで若い人たちに交流の機会をつくろうとする取組だけは続けるべきで、だからこそ頑張らなければいけないと私は思います。そこで、プログラム推進の情熱や、教育の現場の覚悟が問われてくるわけです。そういう中で、主体的に各大学が今ここまで来ていると挙げてきているものに、そちらがチェックしたり目を通したりするという形での進捗状況の確認も大事ですが、やはり3年やってみて私が非常に気になるのは、そこに参加した学生が残した成果物というか、レポート、論文、論考があるのかということです。そういうものは、さっと目を通しただけで、どれぐらいのことを勉強したのか、どこまで頑張ったのかが理解出来ません。しかもグループ学習なので、1人の論考だけでなく、そこで勉強した学生達がまとめた幾つかの代表的なレポートでもあるのかということが非常に気になります。

つまり、私はうまくいっていないなどと言っているのではなくて、苦しい中を頑張っているのだから、それをきちんと認め、応援すべきという意味で申し上げているのですが、そういう意味でもう一息、タイプAを含めた3年間の成果についての率直なフォローアップが要るのではないかと思います。また、それを踏まえて、成果物確認のための方法論をもう少し工夫した方がいいのではないかと思います。それから、以前も発言したことがありますが、ここに参加する学生達をアジアの共通善や価値などというものに向かわせるためには、日本人の学生をよほど鍛えて出さないと押し負けるだろうなと感じます。

そういう面で、せっかくこういうプログラムをやるのですから、今後トルコや中南米などの話も出てくるとなれば、日本から出ていく学生の事前準備の仕組みも相当真剣に考えなければいけないのではないかと印象として発言しています。

(平野委員長) 大変貴重なご意見をありがとうございます。以前も関連するご発言を頂いて、こういうプログラムを進める上では大変重要なことだと思っております。今の寺島委員のご発言に対して、ご意見や何か思いがありましたら、お伝えいただければありがたいのですが、いかがでしょうか。事務局から何かありますか。

(松本室長) 事務局の松本です。今、寺島委員からご指摘のあった、特にキャンパスアジアの部分に関しては、大学評価・学位授与機構の方で、特に質保証という形でどうかというモニタリングの在り方も含めた優良事例の抽出を進めております。その中で学生達を集めて、3カ国でこれを受けてどうだったかということディスカッションして抽出するという取組をしているので、いずれはどういった議論があったかということこの場でご紹介できるようにしたいと考えております。

(平野委員長) 是非それも含めて、今後重要なステップだと思いますので、対応していただきたいと思っております。

(佐藤専門官) 今の点で1点だけ補足させていただきますと、まさに課題や学生の成果という意味では、大学評価・学位授与機構の方でやらせていただいております。実は今回の日本学術振興会にやっていたらいるフォローアップは補助事業としてのフォローアップとなりますので、そこは視点が若干似て非なるところがそれぞれあるということで、今、

松本室長から申し上げたとおり、大学評価・学位授与機構の方でやらせていただいているモニタリングの結果については別途ご報告させていただきたいと思っております。

(平野委員長) 私は以前に大学評価・学位授与機構長を務めており、今もこの日中韓についてはモニタリングの委員を務めています。学生はそれぞれ非常に良い点あるいは問題点を含めて率直に議論してくれています。例えば、フルブライトの会と似たようなところまでいくかどうかは別にして、彼らの中で同窓会をつくりながら、お互い今後のために動こうという活動も出てきています。今ご発言があったようにレポートとして、成果物としてはどういうものがあるのかということが見える形で整理されるとよろしいのではないかと思います。

是非これについては、中間でもよいので、事務局の方から次の機会にご報告いただければと思います。

続きまして、「大学の世界展開力強化事業」の海外連携大学の追加について、事務局から報告をお願いします。

②「大学の世界展開力強化事業」海外連携大学の追加について

【質疑応答】

該当なし

(2) 平成 27 年度「大学の世界展開力強化事業」新規プログラムの公募及び審査方法等について

【質疑応答】

(平野委員長) この委員会で決定した後、事務的な手続きが終了次第、公募開始となります。これまでのプログラムと同じように、応募される大学に対して期待することなどを含めて、是非ご意見等を頂ければと思います。よろしくをお願いします。いかがでしょうか。

(寺島委員) 一つ質問があります。まず、「大学教育のグローバル展開力の強化」というところの平成 27 年予算案が、平成 26 年予算額に比べて 17 億円減っています。さらに、「大学等の留学生交流の充実」と言って新たなプログラムまで組み立てようとしているのに、予算額が 3 億円ぐらい減っています。これはどう考えるのか。

それから、トルコ、中南米に関して、一般論として、いろいろ言い出したら切りがありませんが、例えば宗教や言語などが今までとは違うところに踏み込もうとしているように思えますが、その辺はどう考えていらっしゃるのでしょうか。

(平野委員長) 事務局、よろしくをお願いします。

(松本室長) ご回答申し上げます。まず全体の予算ですが、構造としてはご覧いただくと分かる通り、経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援がスーパーグローバル大学等事業に移行し、事業としては別なのですが、新たにスーパーグローバル大学創成

支援の指定を受けた大学もあるということで、財務省との折衝の中でかなり大きく削られているという状況があります。

それから大学の世界展開力強化事業の方も、今、寺島委員からご指摘があったとおり、新規事業を立てていますが、来年度は財政的に非常に厳しいということもあって、既存事業が一律2割削減という状況になっており、新規事業を立てて予算の総枠を維持する努力をしつつ、既存のものが削られるという状況が、全体的にあります。私どもの高等教育局全体の来年度の予算がかなり削り込まれており、そのうちの部分的な反映としてこのような形になっています。

それから、2点目の新しい領域に踏み出そうとしているのではないかとということですが、確かにスペイン語圏がメインの世界、また、トルコも当然言葉はトルコ語で宗教はイスラム教の世界ということで、事前の申請を希望されている大学との打ち合わせ等は綿密にやっていく必要があるかと思っています。ただ、私どもがいろいろ聞く限りでは、それなりに今まで関係を構築している大学もあって、この事業に対する期待感もありますので、大学には実施していただくだけのキャパシティはあろうかとも思っています。

(平野委員長) ありがとうございます。私の知る限り、文部科学省予算が全体的に削り込みをされていることもあって、教育等が大変重要なときにありながら残念だなと思うことがあります。新規の事業がそれを補って余るぐらいの良い成果を出すようにと思います。

(阿川委員) 関連する質問ですが、全体で予算が減る中で、アメリカとヨーロッパを増やせば当然楽に交流学生が来るのが、中南米とトルコというのは安倍外交をフォローしているということですね。国家として意味があるのなら大変結構なことだと思いますし、トルコは大事ですし、中南米は今非常に注目されていますが、寺島委員の質問と同じかもしれませんが、今までのプログラムと比べて、日本と中南米・トルコとの交流実績や相互に求めている学生交流の需要があるのか、学生が実質的にどのくらい交流するのか。

また、細かいことですが、英語の方はCaribbeanと書いてありますが、なぜか中南米とくくられてしまっています。中南米は確かにLatinで、ブラジルを除けばSpanishです。これは例えばニュースなどを見ていると、カリブ海諸国はイギリスやフランスと非常に近かったりする。一方中南米全体はスペインとのつながりがあって、スペインのニュースを見ていると、度々国王がウルグアイに行ったりしています。そうしたちょっと異なるカリブ海の地域との連携なしに中南米とやるのかということ。つまり、ヨーロッパの大学との関係などを見ているのかということ。

最後に、政策ということにこだわれば、ブラジルなどは大きい国なので、日系人の問題をどう考えるのか、あるいはカトリックの問題をどう考えるのかという点があります。早い話、日本に来ている日系ブラジル人や日系ペルー人の子弟がもうそろそろ大学に行くころに、彼らをブラジルに帰してもいいかもしれませんし、逆に外交政策的には向こうから日系人を連れてきてもいいかもしれません。また、今やローマ法王がアルゼンチン出身で、カトリック系の学校は日本にはたくさんありますから、カトリックとのつながりは私などの想像を超えた非常に優れたものがありますので、その辺りを中心にした方が、大学だけ

でやるよりは進めやすいと思いますが、いかがでしょうか。

(松本室長) 中南米諸国分の選定件数は5件ぐらいの規模になるので、個別のメニューでいくと、日系人に関心のある大学もそういうお話があると聞いています。また、工学系ではブラジル等で人材を育成していきたいという話があって、その辺りでコラボレーションを進めていきたいという希望を持っている大学もあるようです。選定件数が5件、3件という規模なので、十分クオリティの高いものが集まるのではないかと。国立大学協会や日本私立大学連盟などの大学の団体等に来年度の予算を説明に上がるのですが、そのような場でこの予算は中南米やトルコ等を対象にしていると言うと、皆さん関心を示されるのです。ですから、そのような余地はキャパシティとしては十分あるかと思っています。

(平野委員長) その他、ご意見はいかがでしょうか。

(内田委員) 中南米ということになってくると、日本からの移民の3~4世の人たちがかなりの関心を持つと思います。彼らは日本に対する憧れとかなりの知識を持っています。そのときに、こちらから派遣されていった人たちの日本文化への素養のレベルが低かったり、日本の強みをきちんと理解していなかったりすると、非常に大きなマイナスです。先ほどの寺島委員のお話と同じになってしまいますが、特に今回は日本から出す人については事前に教育をする、あるいは選別するときには日本の文化をよく知っている人、日本の強みをよく理解している人を選ぶなど、是非何かご配慮を頂きたいと思います。

(平野委員長) ありがとうございます。寺島委員もおっしゃったように、大変重要だと思います。ここにも入れていただいたように、文化が違うというわけではありませんが、宗教観も含めてかなりきちんとしたところで教育するようにして、曖昧な形では学生を送らないように、本当の意味でお互いが向上するように努めていただきたいということは打ち合わせでも言ったことがあります。その他、いかがでしょうか。

(市村委員) 私は日本・トルコ協会の事務局長をやっており、トルコとの関係は非常に深いのですが、トルコと日本には非常に長い歴史があり、友好関係も非常に深まっています。特に今年はトルコの軍艦のエルトゥールル号が和歌山沖で沈没して和歌山の漁民が遭難者を救助したときから125周年ということで、トルコと日本はますます深まっているということをご承知かもしれません。そういう中で、私どももいろいろと交流関係で動いていますが、大学関係で言うと、トルコ側の求めるレベルと日本の大学側が求めているセグメントが若干食い違っているところがある可能性があります。特に共通なのは、中東文化、あるいは歴史的なものについては大学間交流が非常に盛んだということは我々も承知していますが、もう一つは、日本政府の援助で技術系の大学をつくらうという話もあります。この辺に絡んでどのようにコラボレーションしていくのかということと、この事業をどう抱き合わせていくのかということでは、かなり中身の精査が必要になってくる事業になると思います。トルコ側としては、歴史も大事ですが、特に工学系と農学系の技術を非常に求めているので、この辺とのバランスをうまく調整していった方が、ある

程度リードしていけると思います。放っておいたら、恐らく歴史・中東文明に関する応募が殺到してしまって、それで埋まってしまうという懸念もあります。本来、日本の国益を考えたときには、ある程度セグメントのバランスを取った方がいいのではないかという気もしますので、その辺をどのようにお考えになっているかということをお聞きしたいのですが。

(鈴木専門官) 内田委員と市村委員から頂いた分野のお話ですが、公募要領の5ページの(9)に、今回は日本と相手方の国に共通した課題の解決や特色を踏まえた学問分野に関連する分野を考えてくださいということを出して書いています。これは読んでしまうと当たり前のことではありますが、ご指摘のあったように、歴史や地域研究だけでなく、先方の持っている課題に日本の高等教育が貢献できるようなものが恐らくある地域だろうということ念頭に入れた一文です。

(平野委員長) その他、よろしいでしょうか。

(長尾委員) 予算がどんどん削られていくのは財務省との関係で仕方がないとは言っても、プログラムは削減せずにそのままということは、余裕を持っている大手の大学でなければ申請できないという現状にあるわけです。以前もこういう議論があったかと思いますが、地方の小さな大学にはチャンスが全然なくなるという中で、私がうれしいのは、短期大学や高等専門学校も含め、他大学との連携ということがここに盛り込まれていることです。これは是非中央というか、大手の大学が核になって、地方の小さな大学や短期大学、高等専門学校も手をつなぎながら、できるだけ幅広く学生達にチャンスを与えていただけるようにお願いしたいと思います。

(平野委員長) ありがとうございます。今のご指摘は寺島委員を含め、この委員会で、その大学だけでなく、一緒にやれる体制、インパクトをお互いが出せるようにしてくださいという要望を出したわけですが、それを事務局の文部科学省が受け取って今回から入れてくれたのだと思っています。今、委員の皆さんからご意見のあったところを事務局は真摯に受け止めて対応し、かつ、審査部会において、その言葉の内容を説明頂ければと思っています。

もう一つ私が打ち合わせでお願いしたことがあるのですが、企業の中には今回選定しようとするプログラムの交流国で既に活動しているところも多く、商社を含めて既に大変多くの方々が見地での経験等をお持ちです。ですから、採択が決まったら、その大学が交流国で活動している企業に是非きちんと事業内容を説明し、派遣する学生の事前教育や、留学先で何かあったときに協力してもらえようような連携関係を構築していただきたいということを、私個人の希望として事務局にお願いしてあります。

それでは、この件については、今ご説明を頂いたところに皆さん方のご意見を踏まえて、速やかに新規の公募として整理していただき、公平・公正な審査をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(3) 平成 25 年度 「大学の世界展開力強化事業」 採択プログラムに対する中間評価について

【質疑応答】

(平野委員長) ご意見、ご質問があればお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

(寺島委員) ASEAN ということなので、一つだけ発言させていただきます。ASEAN というのは、日本にとって非常に戦略的な地域です。例えばこの地域に関してだけ、ジャカルタに、経済産業省の予算で、ERIA(Economic Research Institute for ASEAN and East Asia)構想と言って ASEAN の共同プログラムなどについてのシンクタンクをすごく力を入れてバックアップしています。ここに最近ではオーストラリアや中国なども参画してきて、日本だけが主導していくわけにはいかないような空気になってきています。

何が言いたいかというと、これだけの有力な大学と組んでいるプログラムを文部科学省としてサポートしようとしているわけですから、是非 ERIA 構想とのコミュニケーションや連携などを常に意識して、議論を深めて進めていただきたいということです。それが日本全体として、省庁を越えてうまくかみ合っていないとまずいのではないかと思いますから、ASEAN が持っているシンクタンクは日本が中心になってバックアップしているので、それを是非かみ合わせていただきたいということだけ申し上げておきます。

(平野委員長) ありがとうございます。是非事務局側もその点についてご理解いただきたいと思います。その他にいかがでしょうか。それでは、原案のとおり了承いただきまして、進めていきたいと思います。

今日の公開の議事は以上です。後は委員の選考等に係るものですから、冒頭にご説明したように、この後は非公開として審議を進めたいと思います。傍聴いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

傍聴者退出

(4) 審査部会、評価部会委員の選考について (非公開)

(5) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業に対する中間評価結果の決定について (非公開)

(6) 平成 24 年度 「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する中間評価結果の決定について (非公開)

(非公開議事のため未掲載)

議事終了